人口減少に歯止めがかからない宮城県女川町

日本経済新聞 3 月 9 日朝刊「復興のジレンマ」によると、岩手・宮城の沿岸市町村の人口の変化(2022 年と 10 年の比較)で、女川町が最大の減少であった。10 年は約 1 万人だったが、直近の 23 年 2 月は 6000 人を割り込み、4 割減った。「沿岸部、にぎわい戻らず」を象徴する人口減である。5 年前の「女川レポート」を修正して紹介する。

石巻には震災後 3 度行ったが、女川までは足を伸ばせなかった。長らく JR 石巻線が止まっており、復旧後も時間がとれなかった。今回は思い切って石巻から女川まで行き、駆け足で駅周辺の「まち歩き」を敢行した。

映像で見た「万石浦湾」を眺めながら、山裾を進むと女川駅に着いた。しゃれた駅舎 2 階から女川湾を一望できる。この女川湾から巨大津波が押し寄せ、街一帯をとことん破壊した。映像や写真で何回も見てきたが、こうして女川の街並みを眺めると、巨大津波の恐ろしさが実感できる。津波の高さは 16 メートルを超え、被害は町の約 8 割に及んだ。石巻で乗ったタクシー運転手も、震災後の女川は「地獄のようだった」と語っていた。

駅からすこし歩くと「シーパルピア女川」。飲食店など商業施設 27 店舗が並んでいた。まだ早いので、開店前のようだったが、休日には賑わっているのだろうか。海岸まで行きたかったが、まだ工事中。津波で流された交番が、当時のまま残されていた。

にぎわい交流拠点「女川町まちなか交流館」に行った。ロビーには震災復興の展示コーナーがあり、それを眺めながら写真に撮った。女川の地形による特有の震災被害、復興まちづくりの一端を知ることができた。

駅の方に戻ると「女川町地域医療センター」が見えてきた。高台にあるが、2 階近くまで津波が押し寄せたという。「女川は流されたのではない。新しい女川に生まれ変わるんだ」という垂れ幕が印象的だった。山の方を見ると、かさ上げ工事が行われていた。町役場と小中学校の整備も進められていた。

(2023 年 3 月 12 日)